

(第二次 第4時) TRY 4 タッチセンサーでしゃべったり動いたりするようにしてみよう

<p>事前準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各チームに Pepper、PC、ボックスカード、ホワイトボード、ワークシートを配布する。 PCは Choregraphe を起動し、Pepper と接続しておく。 Pepper のオートノマスライフは OFF にし、STAND 姿勢にしておく。 	
<p>本時の目標</p>	<p>タッチセンサーを使い、そのセンサーの反応を合図にして、しゃべらせたり動かしたりすることができる。</p>	
<p>学習活動</p>	<p>教師の働きかけ</p>	<p>学びの姿・学習評価</p>
<p>○今日の学習内容について知る (Pepper のタッチセンサーにふれたら動作するプログラムの作成方法を学ぶ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今日は Pepper のタッチセンサーにふれたら動作するプログラムについて学びます。 身の回りで使われているタッチセンサーにはどのようなものがありますか。 	
<p>◇基本課題 (Pepper の頭をさわったら、しゃべったり動いたりするようにしてみよう) に取り組もう</p>		
<p>【基本課題】 ○プログラムをつくる ○プログラムを試す ○次の課題をイメージする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Tactile Head」ボックスを配置し、そのあとに、動きながらしゃべる一連のボックスをつなぎます。 頭のタッチセンサーは前、中央、後ろと3つあり、ボックス出力のコネクタにそれぞれが対応しています。 頭のタッチセンサーはどれか1か所のみ使うようにします。3か所を使って分岐処理をしようとする、同時にタッチセンサーにさわった場合があり、正常に動作しません。 プログラムをつくり終えたら、プログラムを実行してみましよう。 タッチセンサーは、頭以外に、右手、左手の甲にあります。 これらを使って、分岐処理ができるプログラムをつくってみましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> PCに入力する前に、ホワイトボードにボックスカードを配置し、線をつないだり、言葉を書き込んだりしながら、プログラムをイメージしている。 <p>【情報活用の力】 (行動の観察)</p>
<p>◇発展課題 (頭、右手、左手をさわったら、それぞれ別の動作をするようにしてみよう) にチャレンジしよう</p>		
<p>【発展課題】 ○プログラムを工夫し、改善する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「Tactile R. hand」ボックスと「Tactile L. Hand」ボックスと「Tactile Head」ボックスを並列に配置し、3つの分岐処理ができるようにします。 その後の分岐処理の内容はテーマに関する話題にして、しゃべりと動きを工夫ましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきたことを取り入れ、イメージ通りの動作が実現できるような工夫をしている。 <p>【情報活用の力】 (行動の観察)</p>
<p>◇動作例</p> <p>頭をさわる →テーマに関して現在の進捗状況を簡単にしゃべる 右手をさわる →テーマに関して課題や困っていることをしゃべる 左手をさわる →「それじゃあまた」と言ってプログラムを終了する</p>		
<p>◇プログラムを発表しよう</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> つくったプログラムを発表し、共有ましよう。 	
<p>○まとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を振り返り、今後、自分たちのテーマが生かされるようなプログラミングをしていくイメージを共有する。 	